

長野県埋蔵文化財ニュース

No.40

1994.7.31

(財)長野県埋蔵文化財センター

〒388 長野市篠ノ井布施高田字佃963-4

TEL 0262-93-5926



木製品などの出土する溝の発掘状況

県下初の郡符木簡 —更埴市屋代遺跡—

本木簡は、上信越自動車道に関連した(財)長野県埋蔵文化財センターの屋代遺跡の調査で、平成6年6月に集落域と水田域を画すように配置される溝より、多数の^{ひとがた}人形や^{いぐし}斎串などの祭祀具とともに発見された。今回紹介する以外に何点かの木簡が発見されているが、判読はこれから慎重に進めて行くことになる。

木簡の判読は、国立歴史民俗博物館平川南教授、長野県教育委員会福島正樹専門主事を中心に行っ

ていただき、赤外線撮影等には長野市立博物館の協力を得た。その概要は以下のようである。

下部を欠損しているが、木簡の内容は、郡司(今回の場合、遺跡の位置から埴科郡か)からその下の屋代郷の郷長や里正(屋代郷長里正等)に、公的な行事を行うため、それに必要な^{むしろ}席(蓆)二枚や^{うなぎ}鰻二(?)升・芹などの品々や、建物を造営するため指導をする技術者(□(匠?)丁)の手当(糧代)にするための布五段や、建物造営のための人夫(□□□造人夫又殿造人夫)を10人出すように、命じた(符)ものである。木簡分類のなかでは、文書木簡と呼ばれ、今回の例は、郡の役人がその下の郷・里の責任者に対して出した「郡符」と呼ばれる命令書である。裏面にも、

数文字の墨痕があるが、判読はできていない。なお欠損は、故意と思われ、この命令を伝えた木簡は意図的に割って廃棄された可能性が高い。

本木簡は年代が記されていないが、「郷長里正等」から国・郡・郷・里という地方行政区画が施行された霊亀元(715)年から天平12(740)年の25年間に限定できる。

長野県内でも今までいくつかの(3頁下段へ)

釈 文

(表) 符屋代郷長里正等

敷席二枚 □□□升
 □丁糧代布五段 □夫一人 芹 □(以下欠損)
 □(宮) 造人夫又殿造人十人(以下欠損)

(三九二)×五五×三・五

文化課だより

平成6年度埋蔵文化財保護事業の概要について

1 保護協議・市町村指導： 周知の埋蔵文化財包蔵地(いわゆる遺跡)における開発事業計画について、その保護のための協議を行い、埋蔵文化財と開発事業との調整等を図っていく(平成5年度県教育委員会参加の保護協議件数367件)。

また、公共開発事業については、次年度の開発事業計画を関係機関に照会し、早期に事業把握をして適切な保護が図られるよう努めていく(昨年度照会回答件数1,700件)。従来、開発計画の変更や工事方法の修正等により遺跡が保護されたケースもあるが、その多くは発掘調査による記録保存の保護措置をとっており、昨年度の発掘調査届出件数は326件に達した。

市町村においては、多数の発掘調査に対応するため、県下45市町村教育委員会・町村会等に約120名の担当職員が配置されているが、調査体制を整備できなかったり、質の高い調査が実施できない事例もある。そのため、緊急で広範囲にわたる公共事業関連の発掘調査には県から調査員を派遣するなどの援助をした例もある。また、調査技術向上を目的に市町村担当者発掘調査技術研修会等を開催する。

2 保護・活用： 全国的な評価を得ている遺跡のなかに、大きな開発事業の前に破壊の危機が迫っているものもある。そのうち、八ヶ岳西南麓の縄文時代遺跡群及び和田峠を中心とする黒耀石原産地遺跡群については、保存活用を構想するための会議を組織して検討

を進めているが、本年度は、特に八ヶ岳の茅野市を中心とする遺跡群について、遺跡内容を把握するため、国庫補助を受けて試掘調査を含む詳細分布調査を実施していく。三遠南信自動車道など今後予定される大型開発事業予定地についても同様な調査を実施する。県内遺跡のうち350遺跡程度について、県考古学会に委託して、その保存状況等を現地踏査し現状を把握する事業を、継続して実施するとともに、報告結果により市町村指導などの対応を講じていく。

また、史跡に指定されているものについては、計画的にその保存や活用が行われるよう、整備のための補助金等の対応をしたり、個人住宅などにかかわる発掘調査の補助金活用を関係市町村と協力し進める。

3 資料の整備： 県下の埋蔵文化財包蔵地は1万件を超えているが、新発見の遺跡や範囲や内容が変更になる遺跡も多い。遺跡地図や内容を記載した台帳は、常に修正・整備しておく必要があり、本年度も遺跡地図の整備を中心に実施していく。

新たな重要遺跡や重要考古資料の指定に備え、その候補となる遺跡や出土文化財の把握等も進める。

4 高速道・新幹線・オリンピック施設等への対応：

高速道路・新幹線関連の発掘調査は、本年度も40万㎡の事業量が予定されているが、(財)長野県埋蔵文化財センターに委託して実施していく。

オリンピック関連施設にかかわる埋蔵文化財の保護については、関係市町村教育委員会と協力して、適切な保護措置の実現や発掘調査の推進を図る。

平成6年度

県埋蔵文化財関係人事異動

〔文化課〕：〈文化施設係〉 転出←課付小山英明→下水道課課長補佐、転入←課付萩原光→←教学指導課主査、課付堀内規矩雄←埋文センター上田事務所所長。〈埋蔵文化財係〉 転出←指導主事小池幸夫→北佐久農高、専門主事大竹憲昭→埋文センター中野事務所、転入←指導主事市村勝己←臼田高、専門主事岡村秀雄←埋文センター中野事務所

〔埋文センター〕：〈行政職〉 退職←副理事長伊藤万寿雄、新任←田村治夫(県教育次長) 転出←栗林高広主査→身障者リハビリセンター、古川英治主任→佐久建設事務所、転入←篠原教雄主査(長野)←長野建設事務所、堀正治主査(中野)←北信地方事務所〈調査研究員〉 転出←清水弘→坂城小、大和龍一

→小諸養護、吉沢信幸→飯田養護、奥原聡→南安曇農高、馬場信義→更級農高、井口慶久→長野南高、野村一寿→丸子実高(以上長野)、近藤尚義→長野東部中、飯田吉隆→島立小(佐久)、松岡忠一郎→埴生小、甲田圭吾→丸子中央小(上田)、渡辺敏泰→須坂東中、林正則→小諸東中、赤塩仁→中野実高(中野)、転入←両角英敏←女鳥羽中、平出潤一郎←長野東高(長野)、柳沢秀一←佐久東小、和田進←塩崎小、相沢秀樹←長野ろう、藤森俊彦←屋代南高(上田)、石原州一←川中島中、奥山宗春←篠ノ井東中、代田孝←飯田養護、片山徹←飯田東中、竹内聖彦←山ノ内西小、鈴木孝則←墨坂中、神林忠克←長野東高、小田切清一←中野高(中野)、〈事務所間移動〉 町田勝則(長→上)、五十嵐敏秀・田村彬(佐→上)、山崎光頭(佐→長)、山本浩(中→長)、〈派遣〉 伊藤友久→飯田市教委 (()内は事務所名)

埋蔵文化財の宝

平成6年度事業の概要

ーオリンピック関連いよいよ大詰めー

本年度はオリンピック関連の諸事業もいよいよ最終段階へ突入し、4事務所ともフル回転。昨年とは反対に雨の少ない酷暑の中現在まで順調に展開している。以下、本年度の事業概要を簡単に報告したい。

1 組織体制関係

昨年同様長野事務局のもと佐久・上田・長野・中野4事務所体制は変わらない。職員数は全体で96名(行政14名、教育82名)。年度末の人事は16名(別記)。

2 調査研究事業関係

1)発掘調査 総延面積426,850㎡ 52遺跡

上信越自動車：佐久市芝宮遺跡他8市町村30遺跡

延面積206,100㎡(48.3%)

北陸新幹線：御代田町池尻遺跡他5市町村15遺跡 延面積205,650㎡(48.2%)

建設省他：信濃町貫ノ木遺跡他2市4遺跡 延15,100㎡(3.5%)

2)整理事業

長野自動車道：長野市石川条里・篠ノ井2遺跡

上信越自動車道：長野市松原、中野市清水山・池田端窯跡の3遺跡

3)普及・啓蒙・研究活動など

現地説明会・展示会・研究発表会、また年報・埋文ニュース・紀要の発行、技術研修・指導など。

3 予算関係 3,379,479千円(前年当初比84.7%)

(4事務所の4月からの現況は次頁に)

〔北信〕。長野市浅川松ノ木田遺跡ー縄文前期の玦状耳飾が24点出土。北信では最多出土遺跡の1つである。・飯山市柳町遺跡ー古墳時代初頭の深さ60cm、幅35cmの溝から壺・鉢・台付甕・埴など9点の完形土器出土。狭い溝で遺構の性格がつかみにくいという。・須坂市八丁鎧塚ー2号墳に方形の張り出し部があり石棺と埴輪も出土。1・2号墳の間に新しい6号墳があることが判明。整備事業が今後本格化する。長野市箱清水花岡平の中世墓地の確認調査で五輪塔などが続々と発見され千余点になる。文明19(1487)年が最古という。・信濃町野尻湖遺跡ー陸上発掘で動物の足跡や安山岩中心のへう形石器・削器など出土。4万年前の黒曜石製石器出土で話題となる。

〔東信〕。小県郡境田遺跡では古墳時代住居址のうち2基に平石組みの煙道が付いている例があった。・上田市上田原遺跡では弥生後期〜古墳初期に属すると考えられる鉄鉾が出土した。円・方形周溝墓や木棺墓周辺の土堀中からで、所属時代決定の伴出遺物などに検討の余地があるが、北部九州の10点のみという現状から今後話題を呼ぶことだろう。

〔中信〕。大町市藪沢Ⅰ遺跡の土堀から長さ約7cmの蛇紋岩製玦状耳飾がほぼ完形のままペアで出土。工房址を伴う大北地方特有の縄文前期遺跡への期待がかかっ

ている。・松本市竹淵遺跡では弥生中期末〜後期初頭の単純な集落址を調査。切り合わない10数軒の住居址とともに松本地方では40数点という最多出土の磨製石鏃が注目される。同市小原遺跡では奈良末〜平安初期の礎石をもつ9m級的大型住居2棟や中世掘立柱建物址の好例が調査されている。また同市小池遺跡も前回調査区に続く一帯で行なわれ、縄文中期と平安の相当大きな集落を検出中である。

〔南信〕。駒ヶ根市市場門前遺跡、昨年度の縄文・中世複合遺跡の継続調査で、話題は三重にめぐるストーンサークルに集中した。40cm前後の花崗岩が等間隔で円帯が20、中帯45、外帯70mの規模で構成されている。時期やその構造など今後の検討に期待がかかる。・茅野市尖石遺跡の整備計画がいよいよ9月までに具体化される。全国的な遺跡なのでその範となるような具体案の発表が楽しみである。なお、今年度文化課の重点施策の1つである八ヶ岳山麓遺跡群の詳細分布調査が、茅野市と県考古学会の協力をえて実施された。6・7月の2回、分布調査の結果をふまえた同市駒形遺跡の試掘では黒曜石原産地に通ずる基地的遺跡らしい状況が把握できるなど、今後への期待を高める成果をあげた。県教委による黒曜石原産地の詳細分布調査と相俟って本県ならではの課題究明へ大きな足がかりとなる。

県下各地のニュースから
(4・7月)

(1頁より)遺跡から古代の木簡が出土しているが、いずれも字数が少なく用途不明なものが多かった。今回のような本格的な文書木簡ははじめてであり、県内に残された最古の文書である。文献資料の少なかった信濃の古代社会の実態を明らかにするうえでも、貴重となる。

また、このような「郡符木簡」は、全国的にみても近年出土例は増加はしているがまだ量的には少なく、今回の例は其中でも比較的内容が豊富であり、律令国家による郡とその下の郷・里との間の地方での支配関係を知るうえで、全国的にみても重要である。

屋代遺跡の全体については5頁に報告してある。

佐久・上田・小諸・中野・長野 調査事務所の調査状況



浅科村砂原遺跡の周堤のある住居跡と畑・水路

佐久

☆上信越自動車道関係では佐久市芝宮、小諸市郷土遺跡の調査を行っている。

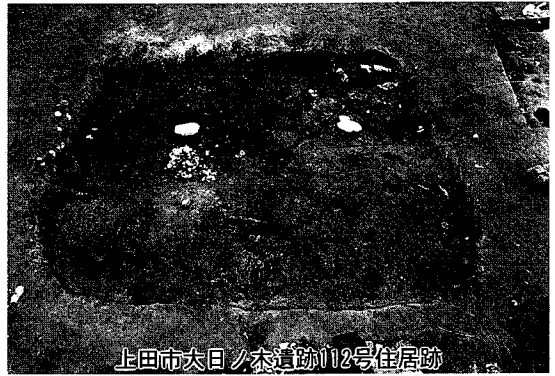
○芝宮遺跡は残件部分のみの調査で6月初旬に調査を終了した。3年次にわたる調査で、古墳時代から平安時代にかけての大集落群の発掘となり、堅穴住居跡延250軒、掘立柱建物跡延30棟のほか、大溝、平安期墓、粘土採掘跡、縄文時代の陥し穴等を検出し、佐久平の古代集落のあり方に新資料を提供できた。

○郷土遺跡も3年次にわたる調査で、住居跡は柄鏡形敷石住居跡も含め延100軒近くにのぼり、土坑墓、土坑、煙滅古墳1基等が検出されており、浅間山麓で有数の遺跡となった。出土遺物も多く、東北・北陸・関東等各地の要素を持つ土器も混在し、各文化の接点としての郷土遺跡の解明が待たれる。

☆北陸新幹線関係遺跡の調査は、佐久市常田居屋敷・前田、浅科村砂原と、中平・田中島の4遺跡を行い、時期不明の水田跡のみが検出された常田居屋敷遺跡は調査終了、弥生時代住居跡2軒、中世堅穴建物跡10軒、備蓄銭が入れた土坑等の調査を行い、残件を残し前田遺跡も調査終了した。

○砂原遺跡は調査継続中で、起伏する地形の上段部分に平安期の本県では珍しい周堤のある住居跡1軒と畑跡・水路等(写真)が、下段は水田に利用され、当時の農村風景を目の当たりにできた。江戸末～明治初の新墓も検出され、座棺に入れられたままの状態の人骨5体が発掘された。県道小諸塩名田線の両側の二面目は縄文時代の遺物包含層となり、縄文時代中期の土器が多量に出土し、最下部は当時の河原と思われる、打製石斧の製作跡が確認できた。現在、千曲川沿いの二面目を調査中で、古墳時代の集落跡が検出され、堅穴住居跡が約30軒出土している。

○中平・田中島遺跡の上段は調査を終了、古墳時代初めから平安時代の住居跡8軒、方形周溝墓3、円形周溝墓1基を調査した。下段は調査途中で、縄文時代の遺物包含層が中心となり、平安時代住居跡1軒が上部から検出されている。



上田市大日ノ木遺跡112号住居跡

上田

☆上信越自動車道関係では、坂城町東平3号墳、上田市宮平・大日ノ木、東部町細田・山の越・森下・真行寺の各遺跡の調査と染谷台条里遺跡の試掘を行い、東平3号墳・細田・山の越遺跡の調査は終了し、他は調査継続中である。

○東平3号墳は、山の斜面に構築された径約15mの円墳で、山側の周囲には幅約2m、深さ1mの溝を巡らせ墳丘を切り離している。谷側で高さ約3.6mを測り、一部しか残存していなかったが人頭大の角礫で墳丘上半部に葺石が施されていたと思われる。

○宮平遺跡は、山の斜面に構築された径約15mの円墳で、山側の周囲には幅約2m、深さ1mの溝を巡らせ墳丘を切り離している。谷側で高さ約3.6mを測り、一部しか残存していなかったが人頭大の角礫で墳丘上半部に葺石が施されていたと思われる。

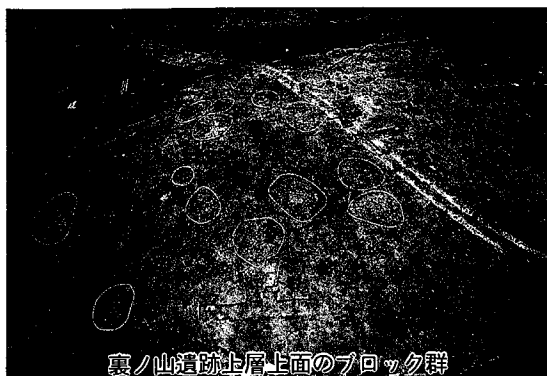
主体部はほとんどが盗掘を受けており全容を明らかにできなかった。帰属時期は、昨年調査した1・2号墳とはほぼ同時期の5世紀から6世紀初めであろう。

○宮平遺跡は昨年からの継続調査で、現在まで古墳時代から平安時代の堅穴式住居約70軒、掘立柱建物跡50棟、土坑、溝、中世の遺構等が検出されている。注目される遺物に円面硯がある。古墳時代に属する住居跡の埋土から出土したほぼ完形品であるが、下部の窓部分には4個の穴が開けられているのみで高さも低く、奈良時代に属するものと判断している。

○大日ノ木遺跡も昨年からの継続調査で、弥生時代末から古墳時代初めを中心として平安時代までの堅穴住居跡約20軒、土坑、自然流路等が検出されている。

古墳時代初めのS-B-112は焼失住居跡(写真)で、中央から北壁寄り左右に、床面より10cm程高いベット状遺構があり、南壁下に並ぶ2本の柱穴に対応する位置に平板な川原石を置くなど特異な施設を持つ。遺物の残りは良く、壺、甕、小型台付き甕、片口鉢、高杯、ヒサゴ壺、土製スプーン等バラエティーに富んだ器種が約30個体分以上出土しており、該期の良好な標準資料となろう。埋没河川からは縄文時代晩期から古墳時代初めの遺物が多量に出土している。

☆東部町の細田・山の越・森下・真行寺遺跡からは縄文時代から中世に属する住居跡・土坑等が検出されている。小河川にはさまれた尾根状の台地にいずれも構築されているがその数は少ない。その中の真行寺遺跡



裏ノ山遺跡土層上面のブロック群

では、白磁、青磁等の輸入陶磁器とともに中世に属する火葬墓、火葬骨再葬墓、土葬墓がある程度のもたまりをもって検出されている。他の遺構とともに祢津地区を中心とする中世集落の復元の一資料になろう。

☆北陸新幹線関係遺跡では、上田市上田城の試掘を継続して行っており、9月から国分寺周辺遺跡の調査に着手する予定である。

中野

☆本年度は主として上信越道に係って信濃町と豊田村の遺跡の発掘を進めている。

。貫ノ木遺跡は昨年度からの継続調査になるが、今年度は現在までに旧石器時代から縄文時代草創期・早期の石器・土器片など約7,000点を発掘している。遺物のほとんどは後期旧石器時代前半期(約25,000~30,000年前)の石器群で、ナイフ形石器、台形様石器などとともに局部磨製石斧及び砥石が発見された。砥石は、昨年度分を含めて7点となり、一遺跡の出土数として全国最多である。この遺跡の性格を理解するための重要なカギと思われる。

。貫ノ木遺跡に隣接する西岡A遺跡は約3,500㎡の調査を現在までに終了した。約1,000点の遺物を発掘したが、ナイフ形石器・槍先形尖頭器を主体とする後期旧石器時代後半期の石器群である。

。裏ノ山遺跡は伊勢見山南東の尾根頂上に立地している遺跡(約8,500㎡)で、4月からの調査で20基ほどのブロックが確認(写真)されるなど、後期旧石器時代の大規模遺跡であることが裏付けされた。約3,000点の遺跡のうち、主な石器はスクレイパー、ナイフ形石器、台形様石器で、黒曜石製が多いことが特徴と思われる。調査は約3分の1が終了した段階で、文化層の分離やブロックの認定は今後さらに検討が必要である。

。大平遺跡は4月から6月に調査が行われ、後期旧石器時代後半から弥生時代後期の遺物1,823点を発掘した。弥生後期の箱清水式土器の土器片があるが住居跡は発見されていない。旧石器時代では、ナイフ形石器、

他に神子柴型石斧がある。

。日向林B遺跡は昨年の調査で旧石器時代の石斧が41点発見され注目されたが、今年度分は現在のところ縄文時代の遺物が6,000点以上出土している。土器が中心で早期の表裏縄文・撚糸文・押型文などと、前期の竹管文などがある。石鏃・石斧・スクレイパーなどの石器も多い。旧石器時代の石器も出土しているが、本格的調査はこれからである。

。風呂屋遺跡(豊田村)は、現在までの調査で縄文・古墳・平安時代の遺跡や遺構が検出されている。縄文中期の土器片・打製及び磨製石斧・土偶、また、今まで存在が知られていなかった古墳1基が発見された。古墳は横穴式石室の下半部を残すのみであったが、玄室と羨道部の保存状態は良好である。副葬品として鉄製品が数点出土している。

長野

本年度の発掘調査事業は、上信越自動車道建設に関わる屋代遺跡・窪河原遺跡(更埴市)、北陸新幹線建設に関わる更埴条里遺跡・屋代遺跡(更埴市)、同じく築地遺跡・於下遺跡・浅川扇状地遺跡群・三才遺跡(長野市)、オリンピック道路建設に関わる西光寺跡遺跡(小川村)が予定されている。また、整理作業は長野自動車道・上信越自動車道に関係した石川条里遺跡・篠ノ井遺跡・松原遺跡が計画されている。これらのうち、奈良時代の木簡多数が発見されて話題となった屋代遺跡(上信越自動車道関連)について速報したい。

千曲川右岸の自然堤防上~後背地側に立地する屋代遺跡群は、過去3年間に弥生時代~中世の集落域・水田域の調査をほぼ終え、本年度は縄文時代中期の集落を中心に、氾濫原側に広がると予想される低湿地が調査対象となった。見込み通り姿を現した低湿地であったが、その内容は想像を絶するものであった。奈良時代の流路・溝が3面以上にわたって存在し、そのいずれの面からも木簡や多量の斎串・形代(人形・馬形など)が発見されたのである。その上、その湿地の氾濫原側には同時期の水田が造成されていた。

木簡は7月末現在で30点に達し、さらに続々と増加している。斎串・形代の総数は恐らく二千点に達するだろう。集中的に出土する場所は祭事場の、もしくは祭の後の廃棄場であろうか。農具や土器等日常生活のにおいのする品は少ない。前年度までの集落域の調査では奈良時代の遺構はごく少なかっただけに、この湿地の特異性は極だっている。今年度後半期の調査がより興味深くなってきたといえよう。

長野県立歴史館

いよいよオープンへ



特色ある複合博物館をめざして

長野県立歴史館が、今年11月に更埴市屋代の「森將軍塚古墳」のふもとにオープンします。

建物は、鉄筋コンクリート2階建、延べ床面積が約1万㎡、周囲の景観によくマッチした扇形の大小2棟が山裾に沿って配置されています。

この歴史館は、埋蔵文化財センター、文書館、そして歴史博物館の3つの機能を兼ね備えた、全国に例をみない複合館です。それぞれは考古資料課、文献史料課及び総合情報課が受けもちます。

考古資料課は、(財)長野県埋蔵文化財センターが、高速道、新幹線、オリンピック関連道路・施設などで発掘している膨大な出土品を中心に県下全域の考古資料を、また文献資料課は、県の行政文書と県下の古文書などをそれぞれ収蔵し、かつ資料収集・整理・保存とその調査・研究もあわせて行います。こうした資料を永く後世に伝えるため、考古資料の各収蔵庫や行政文書・古文書の各書庫は、どれもが最高水準の保存設備で整えられています。

総合情報課は、収蔵した資料をもとに長野県の歴史を総合的に研究し、その成果を県民に利用・活用していただくことが主な業務で、常設展をはじめ、企画展、学習会など教育普及、図書・文献・考古資料の閲覧などの情報提供など、県民のニーズにこたえる活動を行っています。



本館入口をのぞむ



正面玄関入口付近

中でも埋文関係の考古資料課では、特に保存処理機器の充実に力を入れました。X線撮影のための工業X線、成分の定性・定量分析を行う蛍光X線分析装置、微細な資料を細胞レベルで観察できる走査型電子顕微鏡という大型機器のほか、赤外線撮影装置、実体偏光顕微鏡、また木器を処理するPEG槽5台、真空凍結乾燥装置、金属減圧含浸装置をはじめとする機器類も完備しました。県内の保存処理・分析のセンター的役割を果たせるように対応していくつもりです。

以上のように、長野県立歴史館は、誰もが長野県の歴史を楽しく学べる場として、その活動の手助けができればと考えています。